

午後2時17分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、7番堀尾俊浩議員の質問を許可します。7番堀尾俊浩議員。

（7番堀尾俊浩君登壇）

○7番（堀尾俊浩君） 皆様、こんにちは。7番堀尾俊浩でございます。

本日は三奈木の方、継続して残っていただいております。また雨の中、しるしい中、傍聴に来ていただきましたこと感謝申し上げます。地域の方、ありがとうございます。

11月の24日になります、終わりにちょっと要件がございまして、私、秋月中学校に行っていました。紅葉も気になっておりまして行きましたが、それまでの気温が高くて、紅葉の進みぐあいが残念ながらいまいちでございました。このすばらしい紅葉が見られないまま冬になるのかという心配もしておりましたが、それ以上に驚いたのは、平日であったけど、結構観光客の方がお見えになっていた。しかし、その方々が少しがっかりされておりました。カメラでワンポイントの紅葉のそこを撮っておられる、そういうことで申しわけなく感じて帰ってまいりました。

少し驚いたのがアジアの方々がお見えになっておりました。秋月という小さな観光地ではございますけれど、そういったところのアジアの方が観光にお見えになってたということが非常にある意味ではうれしく感じておりました。こうした観光客のリピーター率が気になりますし、これが交流人口の増加、また将来において地域産業の活性化、外部からの定住促進につながればと思った次第でございます。

本日は、朝倉市における地方創生とは、それから国道322号線、それから公共用地の管理について質問席より質問を続けたいと思います。執行部におかれましては明快なる回答をよろしくお願いいたします。

（7番堀尾俊浩君降壇）

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 地方創生について、まずお尋ねいたします。

今きょうまでに各議員の中からやはり関連質問がございました。それでいろいろ私のほうも考えたんですけど、まず地方創生については全国どの自治体も真剣に取り組んでいると思います。実際新聞報道がなされております。しかし特効薬というのはなく、地道に取り組みの積み重ねが大事だというふうに思っております。

朝倉市も庁内会議として4つの部会で検討が進められており、庁外においても創生会議を立ち上げて協議が進められており、庁内会議のほうでは4つの部会、しごと部会、移住定住部会、それから子育て部会、地域づくり・協働推進部会で協議がなされておるということは存じ上げております。その中で、例えばしごと部会であれば12件、移住定住では23、それから子育て部会では21件、地域づくり・協働推進部会では26件の提案が出されておる

ということも承知しております。やはり職員の方、また市民の皆様も非常に興味あること
でございますので、きょうはこれを取り上げさせていただきます。

その中でも、私はピンポイントでいきたいと思います。定住促進についての質問をいた
します。まず先ほどから何度も出ておられるかもしれませんが、空き家情報というのを前回、前
も申し上げたと思いますが、まずお尋ねしたいのは、朝倉市内の空き家情報、これに関し
て老朽家屋に関しては把握されとるということは聞いておりますが、まだ使える、また持
ち主さんが何といたしますか、例えば貸したい、また売りたいという、そういったふうな空
き家についての情報というのをつかまれているかどうか、そのところからお尋ねしたいと思
います。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 空き家の情報でございます。体系的に例えば位置とか規
模、それから空き家ごとの程度とか、そういうふうなきちんとしたデータのようなものは
持っておりません。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 朝倉市には17のコミュニティがございます、コミュニティ組織が。
私はそういった面では、各コミュニティ組織が一番地域に密着した組織でありますし、地
域を把握してあるというふうに思っております。地域内で空き家の情報を把握し、所有者
の基本的に了解というのがあなければなりません、あれば登録を行い、朝倉市で一括
して登録し、情報を外部からの移住希望者に提供するシステムをつくるべきであるとい
うふうに思っております。ただ、同時に賃貸か否か、またはリフォームが必要ななどの把握
も必要ですし、リフォーム等の必要があれば、これは市のリフォーム助成の活用をまた積
極的に提案していくことができると思います。ただし、当然個人情報もありますので、こ
ういった分の取り扱いというのは慎重を期するものがあると思いますが、しかし年々、空
き家がふえているという状況を考えますと、その活用にもしっかりと市が積極的にかかわ
っていくという必要性があり、不動産の仲介においても現在の条例では行政にも限界がある
と思っております、民間とのネットワークも必要になってくると思っております。

こういった面も含めまして、市のほうとしてこういったふうな形で取り込まれるか、ま
たは取り組んでいくことがあるのか、市の職員のほうからもいろんな提案が出ております、
こういった面も含めてお考えをお聞きしたいというふうに思います。よろしくお願いま
す。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 空き家に住みたいという方に対して、市やコミュニ
ティなどが紹介して実際に住んでいただくよう空き家の利活用を進めていきたいというふ
うに考えてます。

ただ、進めるに当たりましては、紹介、あっせん、契約を市が直接行うことができない

とか、トラブルの対処方法をどうするかとか、解決しなければならない課題がございます。そのためにも不動産業者や建設業者などの民間を巻き込むことが大切だというふうに考えております。

空き家バンクという名称になるかどうかは決めておりませんが、今後空き家調査、それから空き家の活用の仕組みの検討、民間業者の調整などを行いまして、その後に空き家の利活用制度というものをつくりまして運用を開始したいというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 実際、創生本部の事業提案の中にも、これも出ておりました。やはりそういった面では皆、各自が考えていることだろうと思います。やはり前向きにそういったものを取り組んでいただきたい。

そして1つあるのは、県のほうも空き家バンクネットワークというのをつくるというのは、前、新聞に出ておりました。これは各自治体からそういう情報を提供を受けるというのが半年ぐらい前の新聞でしたか、出ておりました。こういった面でもぜひともこういったふうな活用をし、また先ほどから出ておりますが、農地付きの住宅とかもでございます。そういった部分のハードルもできれば考えていただいて、なるべくそういったものを外していただいて前向きに取り組んでいただきたい。ぜひともそういうふうに思っております。

これに関して副市長、県のほうもそういったふうな考えを1度ニュースで新聞で見たことがございます。そういった面ではどうなのでしょう。そういったふうな朝倉市のほうからそういう県のほうに対しての情報提供とかいうのも考えてあるのでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 今、市独自のそういった空き家に関する調査等については先ほど課長が申し上げたとおりですけれども、具体的に県のほうからそういった情報の収集ですとか情報提供、そういった話はまだ伺っておりません。県のほうでも今ほぼ総合戦略なり、あるいは地域創生の指針等については今、策定中ということで聞いておりますので、ひょっとしたらその中でまたそういった情報の取りまとめとかについてはあるやもしれません。現在、私、知り得るところではまだ今のところございません。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。実は来年の3月に一応、市のほうとしても地方創生という部分での取り組み事項が明確になってくるとは思いますが、ぜひともこういったことも含めて前向きに考えていただきたいというふうに思います。

次に、その中で子育て世代への支援、これもピンポイントでございますが、私どもがよく聞くのが、やっぱり地方創生を進めていく中で、これから若い子育て世代への支援をこれまで以上に真剣に考えていく必要があると。当然事業として取り組む中では財源というもの出てきますので、全てやりますということはないと思います、そういった面ではこういった部分はしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

私がちょっとお尋ねしたいのは、1つは保育所関係の親御さんから聞いたわけですが、未満児を預けたいが保育所がないので断られるという声は何人かから聞きました。安心して子育てができる環境をつくるということは行政の責任でもございますが、現状ではどうなのか、その辺を教えていただきたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（田中一孝君） 朝倉市の保育利用に係る状況でございますけど、まず本年の4月1日現在で待機児童と呼ばれてる児童についてはおりません。この待機児童の定義につきましては、調査日時点において保育所入所を申し込みがされており、入所要件に該当しているが入所してない児童というのをいいます。また、ほかに入所可能な保育所があるにもかかわらず、特定の保育所を希望し、保護者の私的な理由により待機している場合は待機児童に含めないというふうになっております。しかしながら、希望する保育所に入所できず、入所利用調整等で希望する保育所に入所できない児童がいることもまた事実でございます。

このため、保育需要に応じた供給体制を整備するために、26年度に私立保育園への施設整備を行い、定員を増加し、供給体制の整備を行いました。これによりまして生い立つ保育園が20名の定員増、180名から200名へ。それから立石保育園が120名から135名へ15名の増ということになっております。

こういった状況ではございますけど、年度当初から保育所に入所できないということはございません。ただし、第1希望の保育園に入所できない児童さんはいくつかございます。そういった意味で、保育士が足りないから入所できないという状況にはないというふうに私どもは認識いたしております。

ただし、年度の途中の入所につきましては、保育士の手配、部屋の広さ等の問題もあり、希望される時期に入所できず、しばらく待っていただく。あるいは希望する園とは違うほかの園に入所していただいた例はございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（田中一孝君） 失礼しました。未満児につきましても、今ちょっとお話をしました状況と一緒にございまして、特に未満児だから入所できないということはございません。ただ、一時的に希望する保育園に入所できない児童がいるということはございますけど、保育士が手配が足りないから年度当初から入所できないという事例はございません。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 状況わかりました。事実は定数割れというのが実際ありますんで、いろいろあるかもしれませんが、基本的には待機児童は今いないというふうに認識いたし

ました。

ただ、そしてそういうことで増員を私立のほうでしてあるということもわかりましたが、安心してやっぱり子育てができる環境というのはどういうことかといいますと、やっぱり近場のほうにできるという形ができれば、御両親で共働きでやりたいとかいう方もありますけれど、幸いにじいちゃん、ばあちゃんがおるところは、そういった送り迎えとかいうのもしてあると思いますけれど、やはり厳しいところあると思いますので、少なくともそういったところは今後考えていただきたいというふうに思います。

それから、次に縁結び事業について。これもピンポイントでございますが、平成26年度、これは決算で見ましたら40万円の実績がございました。27年度現在での実績としてはどげんでしょうか。よろしく申し上げます。

○議長（浅尾静二君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（田中一孝君） 縁結び応援事業でございますけど、26年度、昨年度の実績でございますけど、1団体に補助をいたしまして40万円でございます。このときは男性15名、女性14名の参加で9組のカップルが成立というふうに報告を受けております。この後、具体的に進行してるかどうかについては今の段階ではちょっとまだ未定でございます。

本年度の状況でございますけど、5月1日号の市報にこういう活動を行う団体を募集いたしまして5団体の応募がございました。そのうち現在まで4団体につきまして事業が完了いたしております。実績といたしましては、4団体で延べ180人の参加がございました。男が90名、女性が90名でございます。結果として36組のカップルが誕生いたしております。このままゴールインしていただけたらいいなというふうに思ってるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 実を言いますと、私たちの地元もやはり独身の男性の方が多いということもございます。出会いの場が少ないという部分でありまして、やはり私どもは蟻城の話を最初聞いておりました。今度、秋月3地区でも取り組んでおります。そういうことで出会いの場をつくるということでも、ぜひともこれは進めていっていただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

続きまして、国道322号線についての質問をさせていただきます。

一般国道322号線、これは現在八丁トンネルの関連事業、それから馬田地区のバイパス工事がとり行われていると思いますが、現在の確認のため、進捗状況をちょっとお願いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） それでは、さきにトンネルのほうから説明をさせていただきます。

平成18年度に国の権限代行によりまして八丁峠道路事業化を決定していただき、事業着

手をしてるところでございます。事業名が国道322号八丁峠道路、延長が4.5キロメートル。うちトンネル延長が3.91メートルでございます。これは嘉麻の大力から朝倉市秋月野鳥間でございます。事業費167億円。嘉麻市側のほうですが、トンネル掘削が1,716メートルにつきましては平成27年3月末完了をしておるところでございます。朝倉市側、トンネル掘削延長1,075メートルございまして、平成26年度からトンネル工事に着手され、事業進捗が着々と図られております。平成27年度はトンネル本体の掘削工事に向けて改良工事を進行中ございまして、平成28年より本体掘削に入る予定でございます。

続きまして、バイパスのほうでございますが、平成16年度に陣内交差点、これは大刀洗町のところになりますが、交差点から東田交差点までの区間について、バイパス事業として福岡県に事業着手をしていただき、改良工事を実施中でございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 今、特に東田のほうは形が見えておりますが、バイパスのほうは、トンネルのほうが見えておりませんでした。今年度、掘削工事が始まるということは聞いておりました。

今後の見通しとして、当初聞いておったのは平成30年度完成というふうに僕は聞いておりました。その辺がどうなのか、ちょっとお尋ねしたいんですが。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） 前、そういうことを話したことがございました。それで現在の今後の見通しということでお話をさせていただきますが、平成28年度よりトンネル本体掘削に入りますが、完了につきましては…。

本体掘削に入りますのが平成28年からです。完了につきましては、現段階では治水の状況等がいろいろ明確ではなく、工事の工程が確定していないため、開通時期は申し上げることはできない状況であります。今後工事の進捗により開通の見通しが明らかになれば、開通時期を公表する予定だそうでございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） やはり正確な、正確というか、アバウトでもわからないということですので、それはそれでいいとします。

何でこの問題を出しましたかと申しますと、八丁トンネルが、それとバイパス、八丁トンネルですけど、私の場合は、完成すれば、以前の資料でいけば4,000台から7,000台ぐらいの車両が増加するというふうに想定されております。安川地区内においては、この通学路があり、またダンプ等の大型車両が互いに注意しなければならないポイントもございまして、車両が増加することにより事故等の発生が懸念されております。住民の安全を第一に考える場合、市として積極的に取り組んでいただきたいという思いがございまして、その取り組みについていかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） 今申されたトンネルの開通後の安全対策についてでございますが、これにつきましては9月の10日の日、9月の10日に地元の方と、それから朝倉県土整備事務所、それから建設課の職員が現地で調査を行っております。現在、朝倉市、それから関係機関との協議中でございますが、これには警察の関係も出てきますので、そちらのあたりの回答もございますので、今現在協議をしております。それで協議完了後、3カ所の改善要望が出ておりましたが、その回答を行う予定でございます。いましておまちをいただきたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 首を長くして待っております、よろしくお願ひします。

いや、済みません、ありがとうございます。実はもう1つございますが、国道がございますけど、そこに女男石野町線という県道がございます。これは拡幅工事というのが今進んでおるんですが、女男石では昨年、治水用の遺跡が出て、線形を余儀なくされたという事実がございます。これに対しては森田市長も新聞等にも出ておりましたけど、意見等を述べられておりました。ここが通学路でもありますし、歩道のない地点、中学生は自転車通学であります。雨の日等、非常に危険な状態で通学している。過去にも事故がありました。八丁トンネルが開通後は通行車両の増加が非常に想定されております。森田市長が県議時代から、これは積極的に取り組んでもらっていた事業であります。322の八丁トンネルの工事と同時にこちらのほうも市のほうとして積極的に取り組んでいただきたい。早期の解決。実は3軒の家がこの線形の変更によって移動してもらおうというような形も出てきております。ですから、そういった人たちの思いもございますので、しっかりと取り組みをお願いしたいというふうに思っておりますが、御意見をよろしくお願ひします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） まずは事業について、さきに説明をさせていただきます。県道女男石野町線というのは朝倉市の国道322号線の中の長谷山のところから起点としまして、筑前町の国道500号線に当たった終点ですが、総延長約9キロメートルの一般の県道でございます。その中で今申されてるところは、朝倉市の長谷山から千手間、延長460メートル、車道幅員6メートル、これは片側歩道がつきまして全幅9.75メートルでございます。事業費4億4,000万円。現在進捗率は約70%弱でございます。現在、女男石公民館前の道路拡張工事の発注がこのごろ終わりました、取りかかろうとしているところでございます。

それから3軒のところについては、ただいま調査中でございます。

今後のスケジュールとしましては、財政上、非常に県も厳しいということをお申し上げておりますが、早期完成を目指して事業進捗に努めてまいりますので、地元関係者の御理解と御協力をよろしくお願ひいたしますということでございました。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 直接の事業者は県という形になろうかと思いますが、やはり市民の生命、財産を守るという意味で、安心・安全ということでは当然積極的にそういう取り組みをお願いしたいというふうに思っております。八丁トンネル、それから馬田バイパスということのお話を今お聞きしましたが、一体的に考えた開発というのが一番大事だろうと思います。そういった面では、今後積極的に市の取り組みをお願いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） 今言われました八丁峠トンネル、それから甘木大刀洗バイパスの完成後の取り組みとしましては、また、今さっき申されました安川地区の要望箇所につきましては、朝倉市及び地元の皆様と一緒に朝倉県土整備事務所に対し積極的に継続をして協議を行ってまいり所存でございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。今、部長のほうから3件のこと言われました。それは県土整備事務所が余りにも多過ぎて、まず優先順位をつけてくれということで3件にしております。ですから、まだありますけれど、まずその3件の解決という部分をぜひともお願いしたいということを最後に申し添えたいと思います。よろしく願います。

それから、以前から申し上げておりましたことで、一般質問の中でも触れたことございますが、国道386号線、これを横の軸と動線と考えた場合、322号線は縦の動線と考えられるというふうなことを申し上げたと思います。これは平成23年の資料だろうと思いますが、市全体の入り込み客数291万、日帰り267万、宿泊24万、秋月のほうは24万、原鶴、宿泊18万、日帰り70万、現在の実績としてどのように推移してるのか、まずこれをお尋ねしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 今、堀尾議員のほうが言われます数字につきましては、福岡県の観光入り込み客推計調査に基づく23年の数字ということで承っております。直近の県が出してます観光入り込み客の動向ですが、26年、これは暦年でございます、朝倉市全体の観光入り込み客につきましては296万7,000人、3年前から6万2,000人ほどふえております。日帰りでございます、263万4,000人、これにつきましては3万6,000人減でございます。宿泊につきましては33万2,000人、これは8万8,000人の増でございます。

そういう中で、特に秋月地区におきます26年の入り込みにつきましては30万6,000人。3年前から3万6,000人の増でございます。反対に原鶴温泉につきましては13万7,000人ということで、この数字につきましては5万人相当の減ということの確認がとれております。日帰りについては原鶴方面の日帰りについては79万人ということで、8万

5,000人ほどの増ということで26年の入り込み客の中の数字を拾っております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。今、微増という形で見ていいのかなというふうに思っております。例えば宿泊の客がプラスの8万2,000、これは喜ぶべきことだろうと思いますし、逆に言うなら日帰り客が多少減少してる、こういったところをどうするのかという分があると思います。

八丁トンネル開通後の取り組みについてちょっとお尋ねしたいんですけど、やはり縦の動線ができてきましたよとなってくれば、北九州、それから熊本方面からのそういったふうなお客さんなんかを取り込むということもできる、また、それを原鶴、そういったところに案内できるという、そういうことも含めまして商工観光課のほうとしてはどういうふうに捉えておられるのか、ちょっとお尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 先ほどより八丁峠トンネルにつきましては、今のところ竣工の部分についてはその時期が来たらということでございます。さらに秋月の博物館のオープンが平成の29年の秋ということで、これも予定ということで今推移しております。いろんな面で秋月エリアにつきましては観光客がふえるための好機、チャンスということで商工観光課ということで認識をしております。

特に旅行会社等におきましては秋月の知名度は物すごくございます。ただし、皆様方も御存じのとおり、いろんな春の桜の時期、あるいは秋の紅葉の時期につきます渋滞等についても含めて旅行業者のほうは認識をしてるところでございます。

先ほどより以前の数字が1日3,000台ほど通過の部分が増えてくるということで、386を横のライン、トンネルを通じる道を縦のラインということで、このルートを使ったところのいろんな観光のルート、距離的につきましては秋月エリアから三連水車の里あさくら、そして原鶴までの距離といいますと約35キロほどございますので、この分については、いろんな途中、途中、名所、ロケーションもございます。そこあたりについてはいろんな、秋月を起点として、あるいは宿泊を起点として、旅行業者、エージェン等の方にモデルコースという形の中で情報の発信をしていこうということで、1人でも多く、あるいは1人でも多く宿泊してもらいたいような取り組みを今後していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 先ほど15番議員のほうからダム完成後のそういったふうな新しい観光ルートというのも出ておりました。ぜひともそういった面では朝倉市にある1つのいろんな財産というのを取り込んでやってもらいたいと思っております。

ここにあるのは、これは朝倉観光協会が協力されとる「まるっと朝倉・うきは」という

ガイド本でございます。御存じだと思います、これは。これが私、実は2冊買いました。1つは娘たちやりました。家でこれを置いとったら、家内が行ったことない店がいっぱいあるということでございます。ただ、これは僕はいいと思うんです、なかなかよくできていると思うんですが、これは市は直接関与してないと思いますけど、どういった反応が出てるんでしょうか、おわかりになるならば。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 実はここで私も今、手持ちにありますが、出版元というのは民間の文榮出版という出版会社で、皆様よくいろんなコンビニ等で見ますガイド本、いろんな方が旅行する、日帰り旅行するときクーポン券がついたガイド本というのがございます。この「まるっと朝倉・うきは」という前に、実は「ぐる〜り糸島」「まるっと宗像」という2つ出ております。我々観光行政等がつくる分につきましては、市のほうから、行政のほうからこういう材料を上げてくださいということで提示をしております。ただし、これはあくまでも民間のほうから提示があった分で、売れる本づくり、そして糸島、宗像に次いで、この朝倉エリア、うきはを含んだところですけど、朝倉エリアがお客様にニーズがあるということで、出版会社のほうからのオファーがございました。このことについては市のほうが支出をしております。9月の18日から各コンビニストア等で、あるいは書店等で販売しております。売れ行きも好評ということで、いろんな芸能人の方もこれを見られて、SNSを介して情報発信をする、あるいはこれをもとにして各個店を回ってくれるお客様がふえた、あるいは取材がふえたということで我々担当としては喜ぶ次第でございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） せっかくだから、こういったものも1つの、朝倉市がよく聞くのは、いい資源があるのにPR不足ということを知っていましたが、こういったふうな形で出していただく、これが好評である、またこれによっていろんなところから問い合わせが出てくる、これはいいことだと思います。もしあれやったら、もう少し小さい冊子みたいな、文庫本みたいなつくっていただいたらまだいいのかなという思いがあります。これからも取り組みよろしくお願ひしたいと思います。

最後に、公共用地の管理についてお尋ねしたいと思います。

一番わかりやすいのは、朝倉市では5月と9月に一斉に、旧甘木であれば河川清掃と言ったと思います、朝倉とか杷木になれば道路愛護とか、何かそういう表現されとったらいいんですが、そういったふうな形で私たちも年に2回、草刈り機をからってやっております。これは実は6月に10番議員が質問されておまして、その中で回答は出てると思いますが、もう1度確認したいと思います。

というのが、私たちも実質的に山間地でございます。高齢化が進んでいる。その中で環

境、このままでは私たちの集落にしても毎年平均年齢が1歳ずつ上がっていったら、というのはどういうことかというのを、若い者と言われて、私が見れば、若い者と言うたら昔の僕の下におったのがそのまま上がってくるだけで、新しい入れかえがないということで平均年齢が上がってる。恐らく来年は私たちの集落も限界集落になると思います。そういった面では、このままでいけば環境が守られずに荒廃地がふえてくるのが、どうもそういった形になってくるのではないかなという思いもございます。

それで朝倉市の場合、こういったのを今の現状、まず思っておられるのか、これをお聞きしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 環境課長。

○環境課長（高木昌己君） 一斉清掃について、まずお話をさせていただきます。

5月、9月に一斉清掃、環境課が所管して実施をしておりますが、これとあわせて建設課のほうで河川道路愛護というのを朝倉地域、杷木地域で行っております。一斉清掃につきましては旧甘木市時代からの継続の事業でございますので、現甘木地域で行っているのが一斉清掃という名称で行ってます。中身につきましては、河川道路愛護事業も変わりませんが、所管が違うということで、合併当時から事務一元化をするように協議をしてくるわけですが、なかなかやれることは同じなんですけども事務一元化ができてないということで、いよいよ合併後10年迎えます、今年度中に一元化を図るよ、ということ強い指示が出ておりますので、建設課、また関係課と話し合いますので連携をする前提で一元化に向けて話を進めたいと考えてるところでございます。

議員御質問の参加者につきましてはですけども、平成26年度で一斉清掃、それから河川道路愛護、それから環境課の所管しますもので7月と11月にノーポイ運動を行っております。これで合わせて延べ2万6,000名の市民の皆様にご参加をいただいた上で、朝倉市の生活環境の保全のために御協力をいただいております。

また、これ以外に農林水産省の補助事業とか、それから福岡県が行っております川を守る会の事業とか、こういうのもございまして、こういうボランティア以外のものに参加していただいている方が、また倍ぐらいいらっしゃるんじゃないかというところで予測をしております。

現状では一斉清掃に関しましては、各区会長さんを通じてですけども、高齢化に基づく、もう来年からやりませんよというようなことは聞いてはおりませんが、先ほど言われました草刈り等での作業というのが、やっぱりなかなか難しくなってきたということはお聞きしておりますので、できる範囲で、けがのないようなところで御参加いただくように今のところはお願いをしております。

将来的には最終的に公共施設という前提で言いますと、それぞれに所管課がございまして、それぞれの所管課と協議を重ねていって、その対策については図っていくものと思っておりますけれども、市民の皆様のご協力を得て、この朝倉市の環境保全が守られるという前

提で申しますなら、継続して御参加いただきますように私どもとしても啓蒙活動等に力を入れてやっていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） 大体现状は私もわかってるつもりです。なら、どうしようかといったら、妙薬はなかなか自分たちも見つけ切らないというのが現状でございます。

6月のあれの中に新しい取り組みが必要ではないかという提言もされておりました。ボランティアもいいけれど、やっぱり継続性は難しいということもあると思います。かといってシルバーなんかには依頼するにしても、シルバーの人も団塊の世代というふうに考えていけば、これから先、人員の確保が難しくなる。かといって、だんだんだんだん環境が守られなくなるということがやはり一番苦しいわけで、荒廃地どころじゃなくて、やっぱり有害鳥獣、そういったものも出てきますよということも出てきます。

私たちも実際、地域では80歳の方でも草刈り機をかりてやっていただいている。だから私たちはさらに頑張らないかんということが出てきますが、そういった現状があるということ。こういった面ではしっかりこれに関して継続できるシステムづくりというのを私どもも考えていかないかんのですけれど、ぜひとも今後つくっていただきたいというふうに思います。

先ほどから、それでは次に、朝倉市は都市圏の水源地でもあります。先ほどの一般質問の中で旧畜産団地の話もありましたが、市民の手で植樹され、水源地としての役割も担っているとっております。平成3年に、御存じだと思います、白川地区に民間による全国的な大規模な産業廃棄物処分場計画ができ、問題が発生し、最終的に地域住民の運動と、市のほうが買い取っていただいたという経緯がございます。そのときに発表されたのが、まず、よみがえる谷川、甘水谷再生という。そしてその後、わくわく100年の森づくり、これができております。

実を言うと、私の安川のほうのコミュニティのほうで年に1回、二十数名で白川の草刈り、除草等をやっとするわけなんです、それから車道というか、里道の整備等やっとするんですが、やはり一元的な今後管理が必要であろうというふうに思います。そういった面で跡地活用実行委員会というのがわくわく100年森づくりというのを取りまとめておられますが、今後どうされるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 環境課長。

○環境課長（高木昌己君） 甘水白川地区最終処分場建設計画跡地につきましては、平成9年に当時の甘木市が買収をしまして11万4,878平米を取得をしております。その翌年にはその流域、白川の流域であります筑前町、当時の三輪町でございますが、三輪町も参加するようになりまして、土地の所有権10分の1を現在筑前町も持っておるということでございます。

これにつきましては、先ほど議員が言われますように、甘水白川地区最終処分場建設計画跡地活用検討委員会というものが立ち上げられまして、市長の諮問に基づきまして答申、水源地のあり方についての答申、先ほど言われましたよみがえる谷川、甘水谷再生という形で答申書が提出されております。また、これを受けて検討委員会におきましてわくわく100年の森づくりとして具体的な取り組みの提案書が出されております。

環境課としましても、これに基づきまして朝倉市も事業を行ってきておりまして、これまで森田市長も桜の植樹をされまじたりですとか、安川の振興、コミュニティの皆様、先ほど言われました草刈り作業等とあわせてツバキの植樹等行っていただいております。また23年度には国の補助金を得まして間伐材等の伐採等も約800万円弱投資しまして行っております。

先ほど申しました実施計画、わくわく100年の森づくりということで計画、提案をいただきました事業につきましては、ほぼ23年度に終了していると思っております。それ以降は、この計画にも当面継続して管理をしていくと、きちっと適正な管理をしていくということになっておりますので、現在そのところで定期的に見回りながら、荒れないようにという前提で見守っておるところでございます。

先ほど言われますように、安川コミュニティの皆様には非常に御活躍いただいております。毎年出役をいただきましてボランティアで草刈り作業等を行っていただいております。ことしは特にコミュニティ会長さんの御要望として展望台までの道路が、あそこは真砂土でございまして、雨等でかなりわだちができておりますので、その辺どうにかしてくれないかということで要望をいただいておりますので、その辺は来年度に向けてどういう対策ができるかということは今考え中で、予算編成時期でもありますので考え中でございます。

今後につきましても、安川コミュニティの皆様のお力をお借りしながら、このわくわく100年の森の実施計画に基づきまして対応をしまいたいと思っております。

また、水源地というくくりで言いますと、先ほど言いましたように畜産団地の跡地のほうとも関連するわけでございますけれども、ここら辺につきましては向こうを所管しております水政策課のほうと連携をとりながら、同じような対応ができるものについては図ってまいりたいと今のところ考えております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員。

○7番（堀尾俊浩君） ありがとうございます。今後も計画的に進めてもらって、せっかくですから水源地としての活用というのも考えていただきたいというふうに思います。

最後になりますけれど、これは甘木水の歌という、これは安川の人が甘木市時代につくった、結びがあります、結びの言葉が。緑に囲まれた水源地甘木、そんな甘木に私は生ま

れたという言葉がございます。やっぱりこの緑というのは大事にしていかないかんと思
います。行政任せじゃなくて、私たちも積極的にかかわっていく必要があると思
いますが、これからもよろしくお願ひします。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（浅尾静二君） 7番堀尾俊浩議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後3時8分休憩